

令和4年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同研究班」 研究報告書

令和6年1月23日現在

研究課題名	①スラブ・ユーラシア地域と国際関係（史）・地政治		
担当者	氏名	所属機関・職	
	岩下明裕	スラブ・ユーラシア研究センター・教授	
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	山田良介	九州国際大学・准教授	日韓関係・地域政治史
	研究テーマ		
	サハリン・北海道・北部九州・韓国（朝鮮半島）をつなぐダークツーリズム		

## 研究成果の概要

今回の研究では、大日本帝国時代に開発されたサハリン（旧「南樺太」）と北海道、北部九州の炭鉱等に関する歴史的施設や記念館および韓国（朝鮮半島南部）の歴史資料館等をめぐるダークツーリズムの構築のための基礎的調査を行った。

具体的には、近代における北海道の開拓や炭鉱等につわる史跡や歴史資料館等の現地調査および文献調査をおこなった。また、韓国釜山広域市にある国立日帝強制動員歴史館を訪問するなどして、韓国における北海道や北部九州における戦時期の労務動員に関する証言等の展示内容の調査もおこなった。北部九州については主に三池炭鉱に関して文献調査とともに史跡や資料館を訪問し調査をおこなった。これらの作業により、ローカルレベルにおける炭鉱等に関するストーリーの諸相の把握と比較検討を試みた。サハリンに関しては現在の国際情勢下では訪問することが不可能となったため、文献資料による調査のみとなったが、釧路公立大学（当時）の中山大将准教授からの聞き取りや道東での調査により、これを補完することで、スラブ・ユーラシアに関わる視点を導入した。これらの作業を通じて、サハリン、北海道、韓国（朝鮮半島）をつなぐダークツーリズムの構築の可能性について検討を加えた。

研究分担者と主たる役割は以下の通りである。

- ・山田良介（九州国際大学現代ビジネス学部・准教授）【申請代表者】  
：研究の総括、北部九州の炭鉱との比較及び北海道・サハリン関連施設についての聞き取り
- ・花松泰倫（九州国際大学法学部・准教授）【研究分担者】  
：ダークツーリズムのモデル事業の検討
- ・木村貴（福岡女子大学文理学部・教授）【研究分担者】  
：韓国における当該地域の歴史像等に関する調査

研究成果の一部は、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター公募研究共同研究班セミナー（2023年2月27日）「サハリン・北海道・北部九州・韓国（朝鮮半島）をつなぐダークツーリズム」にて山田・花松・木村が各自発表をおこなった。

また、山田・花松・木村に中山を加えた執筆陣による書籍『ダークツーリズムを超えて～北海道と九州から考える』（仮題）（山田良介・花松泰倫編、北海道大学出版会）を2024年9月に刊行する予定である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

山田良介「近代日本の歴史像に対する再検討ー境界／周辺地域からのアプローチ」  
（2023年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。